

意見交換

帝人は岩国基地に追い出された

河井 ご苦労さん。僕らは基地ができたあとの当分の間のことは知らなかったが、艦載機移駐が問題になってから、岩国の問題を考え始めた。艦載機と基地ということではこれまで考えることはしなかった。沖縄で基地を返還したら産業が発展するということと言われた中で、基地が返還されて経済が発展し始めたということを知った。しかし、岩国ではその前に産業があった。ところが産業が追い出されて、基地に頼らなければやっていけない岩国市になってしまった。これが井原さんが苦労されたところだ。自分が初めちゃんとやっていた産業を追い出した形で、岩国が基地に依存する形になってしまった。そこに最大の問題があるという。この歴史をもう1回元に戻すことができるのかという点が大きな問題である。プリントだけでなく、改めてお話を聞くと、ウーンというような気がしてくる。

追補 1945年に終戦。連合国が日本占領。岩国基地を米海兵隊が接收。1946年、滑走路を南北にかえる。1951年9月8日、サンフランシスコ講和条約締結、日米安保条約締結。1952年4月28日発効、連合国による日本占領が終わり、日本が主権を回復（沖縄、奄美、小笠原諸島を除く）。1952年4月岩国基地が在日米軍基地となる。1954年米海軍基地となる。

岩国市民は壊滅状態から自力で立ちなおって、人絹町の経済的繁栄を生み出す。この時、帝人に煙突を切断させる権限が米軍にあったのか。その権限を米軍に与えた法的根拠は何か。航空法：59m以上の物件は航空障害灯とりつけ義務。

藤川 確かに人絹町という名前があるのだから。帝人の中に4000人も5000人も女工さんがいらっしやったというのを聞いた。津田さんのところは帝人の寮だった。女性の寮。あの頃帝人の女性寮、男性寮、食堂があって、大きな建物があった。僕は飯を食いにいった覚えがある。それがなくなっているのは、ああいうふうに通社ができていたけれど、本当はそれだけの人がおったわけだ。帝人製機でも1500人の人がおったわけだから、それだけでも（1家族4人として）6000人である。プラス子会社があるから、それは1万人、2万人と違いはないと思う。そういう意味で岩国市が膨らまない。旧岩国市が11万人から伸びないというが、そこに物づくりが、工場がなければ無理かな。私の息子も東京にいる。岩国に帰ろうにも仕事がない。東京に行って、さらにそこで就職したわけだから、おのずから帰りはしないけれど、そういうふうなのが随分いる。そういう家庭が多い。これではちょっとうまくいかないなと思う。しかしそれを宿命と諦めたくない。基地があるから諦めようと思えない。やっぱり子供がおって、孫がおってでないと、岩国は衰退するばかりだ。

坂本 テトロンと言わないで人絹という。なんでここに「人絹町」というのがあるのか、私は不思議だった。納得した。

河井 大島の私の親戚に、私より2歳下の男がいる。彼は岩国にいて、岩国の嫁さんをもらって、家族を連れて垂井へ行った。どうしてあっちの方へ行ったのかと聞いていた。事情を全然知らなかった。

藤川 それだったら 1960 年頃垂井に新工場ができた時の人だ。

白木 私も岩国で生まれ育った人間ではあるが、背景がよくわかった。沖合移設をしましたが、それが先にあつたら、先程言ったような工場（の煙突切断もなく）、ここまで衰退する必要はなかったのか。1 キロではだめか。

藤川 1 キロ沖合というのが降って湧いたように出てきたのだから、1 キロ沖合移設があつたら帝人製機は残れたかということか。それぐらいでは残ることにはならんだろう。飛行機はアプローチ飛行というものがある。米軍の飛行機が降りるときに、事前に滑走路を見る。これをアプローチ飛行という。ぐーっと周るから。滑走路より幅が広がる。当然、1 キロぐらいじゃ効果はない。

井原 どの程度なのかということは、何か規定があるのじゃないか。飛行場の周辺は何キロとか。高さは幾らぐらいではいけないとか。

坂本 ワシントン州に 1 週間ぐらい旅行したけれど、観光バスから広い芝生が見えたから、アメリカは広いからゴルフ場も広いと言ったら、通訳がこれはゴルフ場ではなくて基地だと言った。基地が見えないぐらい周りが広い。そこにいる間、米軍機は見えなかった。基地問題で留学生を案内したりしたけれど、「君は何歳のときに初めて戦闘機を見たか」と聞いたら、テレビは別で、日本に来て初めて見たという。別の子は南岩国に住んでるけれど、近くに住んでいたら見えるけれど、都会に住んでいたら全然見えない。アメリカではこんなにひどいのは知らないと言っていた。本国では市街地をあんなに飛ぶということはない。沖合に 2 キロ出されても、今度は 1 キロ出した段階で、阿多田島の潮の流れが毎日変わる。太刀魚は潮の流れに沿って泳ぐけれど、毎日潮の流れが変わるから、昨日ここで太刀魚が取れたけれど、今日行ったら取れない。阿多田の人は沖合移設で魚が取れなくなって迷惑している。2 キロ沖合にだしたら、岩国の人は静かになっていいかもしれないけれど、一方で迷惑する人があるから、基地がないのが一番いいと思う。

藤川 （地図を見せながら）これが昔の飛行場。ここに旧滑走路が見える。これだけ旧滑走路がまだ残っている。何にするか決まるまで残しておこうという。

白木 岩国の発展のためには産業が必要である。しかし基地があると工場が来にくい。

藤川 「米軍岩国基地と愛宕山住宅開発の動向年表」という資料がある。これで 1992 年に愛宕山住宅開発で開発適地調査基本構想策定。93 年に基本計画策定。

坂本 これより前に開発があつたようだ。沖合移設と開発計画が。

藤川 同時だ。縦長の年表を見ると、「1992 年防衛施設庁が滑走路沖合移設を決める」とある。それと「開発適地調査」が一緒である。

坂本 これはバブルが崩壊する直前だ。この頃は土地の売買をやめている。

井原 愛宕山のベルコン試運転を開始するとき そのあとの がというのは何か。2000 年の 4 月に選挙があつた。よく覚えているのは、この 2 月か 3 月頃に激しい NLP があつた。市長になる前にもものすごい激しい NLP があつた。私が市長になってからも 1 回あつたけれど、この時ほどひどくはなかつた。2000 年の 2 月か 3 月頃がものすごくひどかつた。

河井 市長の了解とか取らないでやったのか。

井原 それは知らないけれど、一応通知とかしていたと思う。今でも NLP の通知はして

いる。今は艦載機移駐とかがあるからやらないけれど、やろうと思えばやるだろう。了解なんか取らない。よく覚えているけれど、私が市長になってからも、ちゃんと予算をつけて、愛宕山の開発、沖合移設をやってくださいと言ってきていた。滑走路移設したら良くなるという前提でやっていた。国の予算だから、お願いをしに何度か行った。

藤川 守屋事務官が「厚木から岩国に持って行きなさい」と言った。

白木 それにしても、この表を拝見すると 1996 年に何かするとしたら、92 年の計画策定の前に何かをやらなきゃいけなかった訳だ。

坂本 大型開発が損をすることは、誰がみても失敗することがわかっていた。何か裏がないとありえない。

河井 今日の話は裏の話のもう一つ前の段階で、文句をいわせず、堂々とやっちゃった（煙突を切らせた）ということである。

藤川 今日は帝人が煙突を切られちゃったというところから始まった。それがアメリカのジェット戦闘機に弊害があるからという理由で。

坂本 基地があつたら、何をしても良くないということだ。

河合建夫 ソビエトが朝鮮戦争でジェット機を使って、米軍を追い散らした。ソビエトが制空権をにぎった。それに（アメリカが）危機感を感じたんだろう。

あの頃は駅前、今津、西、川下に映画館があつた

河井 岩国の町をもう一度活性化しようという課題がある。それについて何か別の観点から意見が言えそうにも思う。

坂本 NHK のインタビューへの答えで、基地があるから子供の医療費が出るようになったというコメントがあつた。廿日市は基地もないし、再編交付金ももらってないけど、この秋から子供の医療費がでるようになるという話をしたのだが、本来医療費が防衛予算から出るということがおかしい。ただしいルートで出せよと言った。基地があることの負担を押しつけておいて、防衛予算で医療費を出すというのは大いに間違っている。

河井 山の上から見て、あの広い基地に工場を作つたらものすごく儲かるだろうなと思つた。単純な発想だが。

坂本 工場でなくても、デパートとか大きな遊園地を作るとか。

井原 私はひそかにアウトレットを考えていた。大都市の郊外に、地元の商店とは競合しないようなところがあるから。広島近くでもあるし、三井不動産とか探ったけれど、難しかった。米軍住宅に売るよりは遥かにいい。まとめてあそこが使えるからとやつたんだが、具体化はしなかつた。

アウトレット・モール (outlet mall) 1980 年代にアメリカで現れた流通業で、高価なメーカー品や高級ブランド品をあつめて、低価格で販売する店舗を集合したショッピングセンター。

坂本 広島で通勤圏がある人があすこで住むかといつたら、わざわざ岩国駅まで行つても儲からない。

井原 大竹道路が開通していたら。岩国は高速道路のインターが遠いから。

坂本 大竹道路は岩国の基地道路だと言って反対した。最終的にたどり着くところが基地

ということは、米軍に都合のいい道路ができて、彼らが無料で通れる道路が作られる。その周りに住んでる人は勝ち分けをしなければいけない。小さなお店の人は内輪もめしている。最終コースとして愛宕山に繋がったらね。

藤川 すべてそれが日米地位協定に関わってくる。

坂本 基地があるために工場が閉鎖される。住み慣れた町から好き好んで行くわけじゃないけれど、遠くへ岐阜の方へ行かなきゃいけない人たちが出てくる。リストラにあう人たちが出てくる。騒音はある。米兵の事件、事故はある。何一ついいことはない。基地があるから岩国が栄えているかと言ったら、映画館は一つもない。

藤川 文化都市。あえて言えばね。

坂本 広島へ出るよりも近いからここへ出る方がいい。ここへ来ていた。映画館が二つあったが、全然なくなった。

井原 駅前だけじゃなかった。今津にも西にもあり、川下にもあった。

藤川 東洋館とか沢山あった。

坂本 後ろの方はいすの背もたれがこんな高い。どうしてかと思ったら、米兵は前の方へ座るなということだ。でかいから見えなくなる。だから後ろの方にわざわざ背もたれの高い椅子があった。前の方が日本人。

広島で封切を見ようと思ったらものすごく並ばなきゃいけない。岩国だと並ぶことはない。1週間遅れでもいい。そんなに米兵は映画に来てなかった。今度思いやり予算で映画館を建てるみたいだが。

白木 アメリカ人は日本を占領しているという気である。

坂本 学童保育、託児所、病院の産科ができる。岩国市内の産科がなくなりそうだとあった。働いているかどうか知らないけれど託児所、学童保育ができています。

河井 岩国が一番賑やかだった時期はいつごろか。人絹町が繁盛した頃か。

藤川 そうだ。1955年。帝人が衰退したらどんどん人口が減った。

愛宕山はなぜ大赤字になったのか

中尾 愛宕山と岩国の沖合移設のことだが、削った土は埋め立てに有料で売ったのか。それでなぜそんなに大赤字になったのか、理解できない。

藤川 岩盤だったから。お金がかかったんだろう。崩す方が。

中尾 最初に愛宕山の地権者の皆さんが、役所から売ってくれと言われた段階では、あそこに住宅を作るという話だった。それが始まりなのに、岩国基地の埋立土砂 1㎡がかなり高価なのに、買ったというのは少々の泥じゃない。何十万㎡だ。

藤川 ペイしようと思ったら大間違い。本来は宅地にする予定で、宅地にしないでそれだけで売ってというのだったら、当然ペイするはずはない。

中尾 どれだけの赤字になったかということは全然わからないのか。

藤川 数字は出ていたけれど、僕はそのころまだ興味はなかった。勝手なことをしやがるというぐらいしかね。

坂本 普通に業者がやるのなら、第1段の工事が済んだら、そこに建て始める。

藤川 梅ヶ丘では最初に開発したところを売り始めて、お金を切り詰める。

井原 そう行っている。

藤川 2期目はそのお金でやる。

井原 10年の大工事を、何も売らない方がいい、という事はあると言ったね。

白木 はなから米軍のためにやるつもりだった。そうとしか考えられない。

坂本 あそこに消防署ができる。国病ができるという話が出た頃に、米軍の英文ニュースに、今度新しく米軍住宅ができる場所は、消防署もあって、大きな病院もあって、とてもいい環境だということが書いてあった。私はこれを読んで、これじゃ国病は米兵のためにできるんじゃないかと思った。それで米軍が喜んだのだと思った。米軍住宅がこの辺にできるのだということがわかって、あの辺に国病を作るといって、計画が成り立っていたのではないか。実質は逆だったのではないかと思う。

中尾 広島の高裁でも、あそこは住宅にしますと約束があったから、あの訴えを起こした。そこがおかしい。数行の文で却下できるとは、裁判官とはあんなものかと思った。

藤川 三権分立なんかありはしない。

中尾 牛野谷とかいっばい家が立て込んでるけれど、あの頃に売ったら、あそこに住宅がかなりできているはずだ。

藤川 それはきっとできている。

井原 売り出して何年か努力をして、どうしても売れないから変更しますというのならまだわかる。一切売ってないのだから。

藤川 営業活動しないのだ。

井原 買いたいと思った人は何人もいたと思う。岩国ではすごくいいところだから。われわれだって行きたいぐらいだ。市議員の中にもあそこに買いたいと言う人がいた。

藤川 あそこは岩盤だから、少々地震があっても大丈夫。

井原 水害はないし、地震にも強いし、それこそ国病ができて消防署ができれば最高の住宅地になる。いくらでも売れたと思うのだけれど。

坂本 あれくらいの団地だと、中学校用地、小学校用地、高校用地を確保してもいいぐらい。

中尾 何回目かの「政策を持とう会」のときに、大月純子さんだったか、あのひとが言うのは、住宅用だったら斜めに削るといって。全部平らに削っている。だからそれは、アメリカが利用しようという企みで、水平にずっと削っていったのじゃないかと言っていた。

藤川 私のところもそうだ。水はけもいい。

坂本 こういうふうに出ると、全部の家に陽が当たる。

藤川 水も落ちる。

井原 それが平たくなっている。

中尾 よくわかっている人だったら、これはおかしいと思うはずだ。そういうものを読み取る。その段階でだまされていたのではないか。

坂本 時間がかかると言ったら、それこそ人件費が膨らむだろう。

井原 少なくとも何期かに分けてやらなきゃいけない。

坂本 一期の儲けで二期の工事に入る。大きな工事をするときは。

河井 あの時是非常に急いだ。その理由として、「利子が大変になる」と言われた。このま

ま抱えておくわけにいかないから、買ってくる場所があったら一括して売らなきゃいけないというふうな事があったと聞いた。

中尾 資金はどこが貸したのか。

井原 資金は公社がみんな金融機関から借りた。金融機関から借りるわけだから。保障しなければいけないので、県と岩国市が保障して借りていた。

藤川 山口県住宅公社。

中尾 利息はある程度低く貸してくれたのか。

井原 それはまあ、これだけの大型工事で、県と市が保障しているわけだから、安心だから、金利は通常よりは安いかもしれない。

藤川 でも、県と市の債務責任は2対1、3分の1と3分の2。そういう契約書を持っている。

井原 2:1だ。今言った金融機関からすれば、県が3分の2、市が3分の1保障している。だから売れなくて赤字になって、金融機関に返さなければいけないというときには、それだけ県と市がかぶることになる。だから早く売りたい。でもそのことはわかってる事だ。これだけ借りて工事したのが、これだけかかって、これだけ売って、これだけ借金返そうと言う計画だった。10年かけてやれば全部回収できない。赤字が残るだろうということは誰でもだんだんわかってきた。でも、一切売ってないで、かかった費用と金利がかかるから、何百億もかかってしまうから、早く売ってしまおうというのでは、全然事業をやった意味がない。

坂本 やってることと言ってることが矛盾している。早く売らにゃいけないのなら第1期、第2期で売っていけばいい。

中尾 それは市議会でも言わなかったのだろうか。

井原 市議会は、私はよく覚えているのだが、建設の途中に、田村さんなんか、収支はどうなるんだというようなことをよく言ってた。県も市も答えることは同じ。当初の計画による収支計画はこういうふうになっていますよと、みんな木で鼻をくくったような答弁をしていた。全然売ってもいかなかったし、どれだけ売れるか見込みも立たなかったし。だから最初の計画通りの収支計画でいく予定ですと、本当に形式的な答弁が繰り返されていた。そういうふうにはやっておきながら、最終段階で途端に赤字になるからと。2008年5月に事業変更（廃止）案の住民説明会をした。それはよく覚えている。公聴会をやったりした。

白木 私も意見は随分言った。

井原 都市計画審議会も最終的にはかかわった。岩国の都市計画審議会は、簡単に終わったが、県の都市計画審議会では、やっぱり学者弁護士の中に、これを廃止するわけにはいかないと言っていることに、ノーを言った。審議は終わらなかったで知事が怒った。都市計画審議会なんか言われる通りにしろと言って、年明けに圧力をかけた。学識経験者が合意しないもの、反対者があるものを、多数決で決めるということは、審議会ではあり得ない。議会でしかありえないけれども、多数決で決めて強引に突破した。

坂本 傍聴に行ったけれど、ひどかった。

藤川 これで見たら2008年の2月、縦長の年表の方、2008年の5月に公聴会、2008年2月に福田市長が誕生。ここでガラッ変わった。「多くの市民が米軍住宅化に反対の意見陳

述した」。

中尾 2008年に「愛宕山を守る会」が発足した。

井原 愛宕山開発事業を廃止して、売れるようにしなきゃいけない。住宅開発事業が都市計画として残っていたら、売れないから、廃止するための公聴会を開いて、都市計画審議会によって廃止をしてしまったのだけれど、廃止するまで跡地を米軍住宅にするということは決まっていなくて、明らかにしないままに廃止してしまった。土地をどうするかが決まらないままに廃止をしてしまった。ずっとごまかしていた。でもさっき言った、都市計画審議会の弁護士や学識経験者は、住宅開発すると言っておいて企画したのに、廃止するというのも大変なのに、廃止した後どうするか決まらなくて、ほっぽり出すような形で、都市計画を廃止するというようなことは、法律上できないのではないかと行って、正論を述べたのだ。その裏では、内部文書を誰か市役所の人がもらして、その中に都市計画審議会をやってる時に、すでに市の内部で協議されていて、国から愛宕山を売れと言われていて、「それに反対すると民間空港はやらないぞ」と言って、おどしをかけられたようなことが暴露された。

白木 内部文書というのは、いわゆる日米合同委員会の密約と呼ばれるような資料なのか。

井原 密約という、約束を交わしたようなものだったら、もっと大変なことになるのだけれど、密約を交わす前段階の、市役所の中の市長を囲んだ協議、会議、国がこうっているから、売らないという民間空港もできない。売った方がいいんじゃないかというような、そういう議論になった。そのあとで何らかの密約が交わされたかもしれない。密約はなくても、国に出かけて行って、売るから、都市計画を廃止して米軍住宅に売るから、民間空港はぜひやってくれと言っているはずだ。

中尾 愛宕山の天野さんのお話では、全国でこんな大規模な開発というのはあるところにあるらしい。それが多少赤字になっても、住宅として売って、その地域が町になればちゃんとうまくいってるところがいくらでもある。それなのに、なぜ岩国がこういうことになったのか。われわれは、どうしてだまされたのか、という話をした。全くおかしいと。だから広島の高裁にも行ってくれという話があった。

坂本 建物が建てば、住む人たちの住民税が入る。年寄りが入れば国保税も入ってくる。介護保険をかける人も出てくる。

井原 固定資産税も入る。しかし固定資産税が永久に入らなくなった。今の基地も固定資産税が入らないので、交付金もらっている。交付金ではカバーできないぐらい損をしている。

中尾 防衛施設庁が買い取るということは、全部国有地になるのか。

藤川 国有地だ。

井原 今はそうだ。もう1回、基地に提供する時に、地元市長、岩国市への協議があるはずだ。もう1回 OK を出さなきゃいけない。

中尾 岩国の基地でも全部アメリカのもので、提供するというのは貸しているのか。差し上げたのか。

井原 差し上げたわけじゃないけれど、日本の土地なんだけれど。貸しているわけでもない。提供ということ。地位協定に基づいて基地としての使用を、自由に使用することを認

めている。

中尾 あんだけのものが税金も何も入らない。

藤川 国から入る交付金は13億ぐらいだ。それはわれわれの税金から。

中尾 われわれが払ってるだけか。沖縄の場合は個人の土地を接収したのだけれど、800億ぐらい国が払っている。

井原 岩国は誰も借地代をもらってる人はいない。平岡さんのところなんて、旧海軍の時代に安く取り上げられて国有地になってしまった。戦前だから安く買い叩かれたんだらう。

中尾 接収の時の本を読んでもみると、一番惨めだったのは小作だった。公民館へみんな集められて、憲兵が公民館のなかに立っていて、口答えしたら叩かれる。自作農はわずかにもらった。小作人はそのまま。

河井 今日の話は、終わってしまった流れの話だった。これから何か提言することができそうか。

やっぱり問題は日米地位協定

藤川 とんでもない大きな問題になるのかもしれないが、やっぱり安保条約の前の日米地位協定に戻るだろう。地位協定を見ると、いろんな文書があるけれど、やっぱりいつでも、どこでも、いつまでも使われる。アメリカが使うという文面を変えなければ、こういうことはいつまでたっても日本全国同じことだということだ。

日米地位協定 第2条(基地の提供と返還) 1(a)合衆国は、日米安保条約第6条の規定にもとづき、日本国内の基地の使用を許される。(この条文は、①米軍は日本国内のどこでも、基地を提供するよう求める権利があること、②日本側は・・・「合理的な理由」がなければ拒否できない、としています(前泊博盛)。米軍が要求する辺野古への基地新設をやめさせることが難渋しているのはこのためだろう)

坂本 米兵の事件ばかりよく報道されるが、好き勝手に飛べるのが日米地位協定だ。

藤川 日本の上空を使えるわけだ。いつでも、どこでも、いつまでも。それを変えない限りはだめである。いくらわれわれが民意を起こしてわいわい言ってもあかんなあと思う。それが今僕が思うことである。僕はずっと労働組合の委員をやっていたけれど、何らかの成果がなければ役員を降りなきゃいけない。僕は10年ほどやりましたけれど、この運動は全然成果が上がらない。それどころかどんどん悪くなる。だからいま少しテンションが落ちている。

坂本 藤川さんの資料では、爆音と米兵の事件・事故しか目がいけない。そうじゃなくて、街が発展しないということが、これをみればはっきりわかる。市があっても町は発展しない。人絹町とってにぎわった所もなくなっている。そのそもその始まりが煙突を切られたことだ。街の発展にもつながらない。なおかつ米兵の事件・事故という被害もあるということが見えてきたなと思う。

井原 沖縄では答えが出ている。返還された土地が開発されて市民センターとかになって、基地があるよりもはるかに経済効果が上がっている。そういう結果が出ているから、具体的に言えるのだ。岩国ではまだそういうことがないから、返還させたこともないし。本当は沖合移設で一部返還するということがあった。

井原 もう地主の権利はないんじゃないか。戻してもらおうといっても、公共用地として戻してもらうのではなくて、一部は正門の右あたりを戻してもらおうと書かれている。戻してもらったら、道路を作って向こうにつなぐ。道路が止まってる、あれをつなげるんだとかという議論はあったのだが、今は何もしてない。そういう議論は。

藤川 それどころか、延長ストップするところから新しいのができているからね。家を作っているから補償とるのかどうか知らないけれど、あれずるいなと思う。

井原 一斉に作ると言われていたけれど、まだ残っているのか。返還するというお話は何もなくなっている。返還といっても微々たるものだ。それでも、少しでも返還させるという話があったのだが。

河井 公共の施設を作るとかそういう使い方を。

井原 そういうふうに言われていたのだが、何もない。今は消えていってない。市議会でもそういう議論がその当時は常にされていたけれど、今はどうなってしまったのか。艦載機が来るから、話がきえてしまったのか。

河井 返還されたことはないのか、岩国では。

井原 基地周辺の住宅を移転して、緩衝地帯を作ったらいいのではないかという議論もされてはいたが、難しい。

坂本 ここほど基地がよく見えるところは他にはない。

河井 大島の文珠山から見たら、岩国基地は広い。

藤川 日米地位協定の日本の領土上空をいつまでも、どこでも使えるという文面を変えなければだめだなあと思う。

井原 それが一番の根源である。

中尾 安保条約というのは期間はないのか

坂本 破棄しなければならない。

井原 安保条約は期間がない。ただし、どちらか一方が破棄の通告をすれば、1年で無効になる。だから日本政府が破棄すると決めれば、通告すれば終わる。そういう面白い規定になっている。だからこのままだったら、日米同盟が大事だと言っていたら、永久に続くだけだ。

白木 トランプさんが「日本なんかもう知らない」といって大統領になったら、ハイハイと言えればいい。(笑)

井原 言わない。言えば終わりだ。

中尾 政権が変わらなきゃだめだ。

日米安全保障条約 第10条 この条約が、10年間効力を存続した後は、いずれの締約国も、他方の締約国に対しこの条約を終了させる意思を通告することができ、その場合には、この条約は、そのような通告が行われた後1年で終了する。

井原 政権が変わっても、今の民主党政権なら日米同盟中心だからね。

中尾 国民投票するのはどうだろうか。

坂本 イギリスが大変だったじゃないか。(EU 離脱か残留かの国民投票)

井原 今の状況だったら、国民投票やっても、安保条約を解消しろというのが勝てるとは思わない。解消まで行くと、まだまずいじゃないかと思う人が沢山いる。やっぱり朝鮮半

島とか中国とか、そういうものがもっと住民が安心するようなものにしないと、とてもじゃないけれど基地全部日本から撤去しろといったら、国民投票やったら負けるかもしれない、今は。沖縄の負担をもっと軽減しろとか縮小しろとか言うのなら、勝てるかもしれないけれど、基地を撤去しろと言ったら、国民投票やったら負けと思う。いきなり選挙とか廃止とか言ったら難しいから、やっぱそんなものはいらないんだ、弊害が多いんだ。中止にも何もならないし。「もっと中国と朝鮮と仲良くしてアジアの平和状態を作る方が、日本にとっては安全なのだ。そうなればアメリカ軍がますますいらなくなるのだ」という方からやっていかないと。

基地でない町づくりの提言を

河井 今日の話をもとめてみると、岩国でも、例えば基地がなくても賑やかな街になるんだよという計画みたいなものを。

井原 そういうのが提言できるといいのだが。そういう意味の提言というのはなかなか難しい。

白木 そういう方にすすめるためには、先ず製造業を作らなきゃいけない。というのは、流通業だけだとみんなの持っている金がグルグル回るだけ。よそからお金が入るためには、物を作らなきゃいけない。岩国で。

井原 アウトレットなんかでも、よその人が来て、よその業者が儲けるだけでは、やっても地元落ちるわけじゃないから、愛宕山の開発が米軍基地になるよりは、税金が入るからいいのだろうけれど、地元の大きな発展という意味ではあまり効果がない。おっしゃる通りだ。

白木 帝人なんかを中心にした昔は、こういうのがどんでんできて、岩国が栄えたのだ。

河井 東京へ出た息子がやっぱり岩国に帰ろうと思うようにしなければ。

井原 米軍基地がなくなれば、そこをどうやって活用するかということでいろいろできると思うけれど、ここは交通もいいし、水もいいところだから、いくらでもできると思うのだけれど、今、企業誘致をするというのもなかなか難しい。

坂本 広島商工センターのようなものだったら、公害もないし、あそこに公社企業がみんな移った。イズミなんかあそこに本社があるし、結構大きい企業の本社があそこに全部ある。あそこに本社が移ったから、広島市は本社から法人税が沢山入る。本社企業が来るようにすれば、工場だと公害が出るから、そういうものではない工場だとか。

河井 いま日本全体で製造業が落ちている。

白木 さらに言えば、よその国に取られている。

坂本 日本人が大根もまっすぐ、これもまっすぐ、そうでないと嫌がるから、どうしても薬品を使ったりする。虫がくうのが安全なのだけれど、虫が食ってないのがいいとか言って、日本で自分たちが作ったものだろうと思っても、農薬を使わざるを得ない、と言っていた。

中尾 消費者が贅沢ばかりいう。

井原 高くても地元のものを買う、安全なものを買うのじゃないといけない。私の家の米は高いのだ。30キロで8000円ぐらい。ちょっと高い。岩国のまちづくりを考えるときに、

土地もいまないし、これ以上工場誘致製造業というのもなかなか難しいかもしれない。だから、物づくりといっても、コンピューターとかソフトとか、そういうものなら考えられるかもしれないけれど。もう高度成長の時代ではないので、こういう事ではなくて、もっとほんとに住みよい環境で住みよい地域を作って、広島と連動して、いい高級な住宅地みたいになって、広島と一体で発展するというのもあるんじゃないかなと思う。今は全く逆行しているから、住みにくくなっていったら、誰も住まなくなって、人口が減っているけれど、これからますます交通も発達し、道路もできて、住みよくなっていったら、近くなっていったら、もうちょっと広島の住宅地がこっちへ出て、岩国にまで行けばすごく環境が良くて、錦川があって、錦帯橋があって、文化が良くて、自然環境が良くてとなれば、東京とか大阪で、神戸があって、横浜があって、近郊の住みよい住宅地にするという手もあるのかなという気がする。大きな町づくりは難しいけれど、基地ではない町づくりの提言方針を考えなければ。

河井 それをちょっと進めていかなければいけない。できる、できないはつぎの段階のこととして。

白木 そういう発展のためにも、基地があつたらいけない。

井原 ここに基地がなかったら、あそこ（現在の基地の場所）に良い工場が来ていたと思う。旭化成があるし、東洋紡があるし。あの真ん中が抜けているわけだ。

河井 地位協定は大きな課題だけれど。また違った観点からの提言というのも考えていかなきゃいけないかもしれない。

藤川 衛星都市。ベッドタウン。

井原 世界遺産もやっている。

発言者

井原勝介
河合建夫
河井弘志
坂本千尋

岩国市今津町
周防大島町西安下庄
周防大島町日前
廿日市市桜尾

白木茂美
中尾久利
藤川俊雄
岩国市平田
周防大島町森
岩国市平田